

附句の独立鑑賞から川柳への道を拓いた恩人

慶紀逸250年記念講演句会

紀逸忌法要

龍泉寺御住職 土田 恵敬 和尚

日時 平成24年5月8日(火)午前11時
会場 台東区谷中・龍泉寺

台東区谷中5-9-26 TEL 03(3821)4601

講演句会

日時 平成24年5月8日(火) 12時開場

会場 台東区・谷中「ユニティセター」

台東区谷中5-6-5 TEL 03(3824)4041

会費 2000円 (法要・講演・句会・発表誌)

来賓紹介・挨拶

(財)園芸文化協会会長・元参議院議員

保坂 三蔵氏

東京都議会議員

服部 ゆくお氏

記念講話 「俳諧中から見た紀逸」

加藤 定彦氏

「川柳と慶紀逸」

尾藤 三柳氏

パネル展示 「目で識る慶紀逸と台東の川柳」 Web川柳博物館

記念句会 宿題 (各2句吐)

- 十四字 武勇 佐藤 美文氏選
- 十七字 たまげる 大野 風柳氏選
- 十四字 代わり 渡辺 梢氏選
- 十七字 契機 竹本 瓢太郎氏選
- 十四字 混 江戸 脇屋 川柳氏選
- 十七字 席題なし

締切・午後12時50分 三才・五客に呈賞

別に献句1章を「記名」でお寄せください。事前に短冊に書いてお送りいただいたものは、法要時に仏前にお供えいたします。

会場の都合により、「出席希望の方は事務局まで事前にお知らせください。」

申込み・問合せ・投句、その他は事務局まで。

慶紀逸250年記念講演句会事務局

住所：114-0005 東京都北区栄町38-2 TEL 03(3913)0075
メール：i.ssen@oct.or-senryu.com



主催：慶紀逸250年記念講演句会実行委員会 補助：台東川柳人連盟 川柳学会 川柳さくらぎ、とうきょうと川柳会
後援：台東区教育委員会、(社)全日本川柳協会、下谷観光連盟 協賛：タカナン乳業(株)、タケシタ乳業(株)、不二製油販売、ケーキ工房アングランテ

附句の独立鑑賞から川柳への道を拓いた恩人

慶紀逸没後250年

2012・5・8

川柳という文芸の発祥は、宝暦7年8月25日、初代柄井川柳からいせんりやうが最初の万句合開キを開催した事に溯りますが、真の文芸として確立したのは、明和2年5月の『誹風柳多留はいふうやなぎだる』の刊行によって十七音独立の詩形として鑑賞されるようになった事にあります。『誹風柳多留』は、呉陵軒可有によって編集されたものですが、「一句にて句意のわかり安きを挙て」という理念が文芸性としての川柳の道を確立しました。

この『誹風柳多留』には、先行の書籍として『誹諧武玉川はいかいむたまがわ』というものがありません。

同書は、江戸中期の俳諧師・慶紀逸により編まれた江戸座俳諧の高点句集ですが、従来の俳書とは異なり雑俳書のような小本サイズを採用し、前句を省いて句ごとの面白さを楽しむために附句を独立句として扱いました。川柳とよく似た俗談平話の人事句が多く、情緒とユーモアに富んだ内容は、おおいに江戸の人々に受け入れられ後の川柳にも少なからぬ影響を与えました。この附句を独立句として扱い、前句との響き合いを楽しむ俳諧の世界から、それぞれの句ごとの面白さを楽しむ鑑賞が、後の独立文芸としての川柳への理念として伝わりました。

『誹諧武玉川』には、古川柳と重なる内容があり、中には川柳評万句合への嵌め句のネタ本として利用されたこともあります。江戸期はもとより、明治以降の新川柳においても多くの柳人が『誹諧武玉川』に興味を持ち、学んで参りました。残念ながら、昨今の風潮として、川柳人の『誹諧武玉川』に対する興味は薄れ、忘れられている感もありますが、その存在がいかに川柳に影響したかを柳人は識っておくべきでしょう。

平成24(2012)年5月8日は、その『誹諧武玉川』の編者・慶紀逸没後250年にあたります。紀逸が没したのは、川柳も盛んになってきた宝暦12年5月8日で、谷中の龍泉寺に葬られました。

幕末から「十四字」として川柳家の間でも十七音と同様に区別なく作句され、明治には阪井久良伎らの先覚によって「十四字詩」として試みられ、またその後多くの柳人が句作の中に取り入れた「七七句」の元は、慶紀逸の『誹諧武玉川』にあります。今日、十七音の長句とともに「十四字詩」として俳諧の短句が独立した表現手段として定着しつつあることをみても、柳人の俳諧師紀逸に対する思いは、俳人以上のものがあります。

川柳が、単なる前句附万句合興行で終わらなかつたのは、慶紀逸の『誹諧武玉川』があったからこそともいえるでしょう。その川柳の恩人ともいえる紀逸の没後250年の機会に、先人を偲ぶ会を行います。お誘い合せの上、お出掛けくださいませ。



慶紀逸像『誹諧武玉川』10編より
〔早稲田大学蔵〕



『誹諧武玉川』初篇
〔朱雀洞文庫蔵〕



『誹風柳多留』初篇
〔朱雀洞文庫蔵〕